



TSURUGASHIMA ROTARY CLUB

# 鶴ヶ島RC会報



2020-2021年度

第2570地区ガバナー 相原 茂吉  
鶴ヶ島RC会長 田中 憲一

R.I会長 ホールガー・クナーク

第一グループガバナー補佐 齊藤 勇司  
鶴ヶ島RC幹事 佐々木龍児

第1867回例会 令和2年12月9日(水)  
例会場 アルカーサル迎賓館 川越

【開会点鐘】 12:30 田中憲一会長  
【開会】 SAA 山岡達生君

## 【会長の時間】

11月25日に第49回ロータリー研究会が、初の試みとしてZoom会議と言うオンライン形式で開催されました。(第1部・第2部で、860名の参加となりました。)6時間という、長丁場の会議でございました。

### 喫緊の課題

①新型コロナに関わる社会  
コロナ禍の中のオンラインでの例会の推進です。  
釧路北ロータリークラブさんの例会についてお話がございました。

7月より例会を予定しオンライン例会に移行し、現在も月2回程度オンライン例会をされているそうです。最初は、不慣れで失敗も数多くあったそうですが今では会員のから支持を得ているそうです。

当クラブも今後、コロナが猛威を振るようでしたら一度検討してみたいと思います。

### ②会員維持は切実で、特に注力

世界の会員数が、2020年9月時点で119万人です。3年間で、3万人減りました。

その中で、2020年度女性会員の内訳ですが、世界では23% 日本では7%です。

2023年度目標が、世界では30% 日本では10%以上です。

目標に向かって、頑張っていきたいと思います。

### ③ローターアクトクラブの地位向上

まず、ローターアクトとは、1968年理事会で採択されたプログラムで、18歳から30歳までの青年男女のためのRIの奉仕クラブです。

次回の開催は2021年12月5日頃の予定です。ぜひ皆様もご参加をお願いします。

当クラブである渡辺さんの写真(第2回)が埼玉りそなさんと展示されていますので、お時間のある時に是非ご覧になって下さい。

## 【幹事報告】

佐々木龍児幹事

1. バギオ日より
2. 鶴ヶ島市交流協会よりニュースレターが届いております。

## 【委員会報告】

奉仕プロジェクト部門委員会

西澤克己部門委員長

12月5日地区公共セミナー報告

## 【出席報告】

森治高央委員長

会員数	出席者	出席免除者	免除出席者	出席率	修正率
26名	24名	2名	2名	92%	

### ◎ニコニコBOX

- ❖ 今日は新井慶司さんの代わりに卓話をさせていただきます。 山根義法君
- ❖ 山根さん卓話有難うございます。 田中憲一君  
内野麒一君 川野昇君 中寫清君  
松崎峰夫君 齊藤勇司君 鴨下三夫君  
山中基充君 横山明美君 齊藤大祐君  
西澤克己君 木村武志君 佐々木龍児君  
山岡達生君 登坂一彦君 森治高央君  
菊田真忠君
- ❖ 山根さん卓話大変有難うございます。誕生祝ありがとうございます。 新井慶司君
- ❖ 前回欠席しました。 渡辺道雄君
- ❖ 6日(日)米山奨学会カウンセラー会議及びクリスマス会に齊藤大祐会長エレクトと出席しました。奨学生のアキラさんも司会で頑張っていました。 宮前典子君
- ❖ 今日は長男の誕生日。感謝お陰様で大きく成長しております。 市川大君

## 【卓話】

山根義法君

「台北艦舩ロータリークラブ姉妹クラブ

交流について考える」

台北艦舩RCとの姉妹クラブ交流は、昭和61年度会長を務めた吉川さんと、艦舩の創立会長邱さん(PPカ

ラー)との間で結ばれました。当時は予算がないとか、海外の人たちとの交流自体に反対される人も大勢いたようですが、ロータリーには国際奉仕としての概念があります。手続き要覧に「ロータリアンの間に理解と善意を育むことが、ロータリーの国際奉仕が果たすべき仕事である」と謳われていますので、とりあえず実施しようとなったようです。

若い会員が増えてきているので、台湾との姉妹クラブ交流というものを考える機会として、少し私見を交えながら話してみます。まず交流というものを考えたときに、国家間の親密度、信頼度であるとか、文化や価値観がある程度理解できるものでなければ、長続きしないだろうと思います。では台湾はどうかにかについて、いくつかの事例を話しながら考えたいと思います。

まず、2011年3月11日に発生した東日本大震災の際に、真っ先に救援隊の派遣を申し入れたのは台湾でした。(震災時の台湾救援隊の心のこもった救援活動説明省略) 次に、その2年後の2013年3月17日に行われたWBCアジア予選の初戦は日本と台湾の試合でした。試合当日、日本の観客席側のあちこちから「謝・謝台湾」のプラカードが上がりましたが、同時に台湾の観客席側からも「東北頑張れ」「日本頑張れ」「ありがとう日本！」のプラカードがたくさん上がりました。試合は日本が1点リードで勝利しましたが、終了後に台湾選手団全員がピッチャーのマウンドに集合し、一重の円陣を組み、日本の観客席に向かって全員が深々と一礼しました。その行動に惜しめない拍手が起きました。野球を通じて一人一人がつながり合えた瞬間でした。これぞスポーツマンシップです。このことはネット上に流れ、大勢の人が互いに感動してたたえ合い、日本と台湾の距離が非常に近くに感じた瞬間でした。

1999年9月21日に台湾中部大地震の際には日本は直ちに国際緊急援助隊を台湾に向かわせました。全土で余震が続く中で、日本隊はハイテク機器を駆使し、瓦礫の下から生存者を探り出し、昼夜を問わずに救助活動を行いました。多くの台湾人の胸を打ったのは、運悪く助けることができなかったご遺体の前で、日本救助隊が整列し、手を重ね、頭を下げて黙祷する姿でした。中華圏にはなかった死者への哀悼の意を示す日本の風習・文化に多くの台湾人が感動しました。

日本は1895年に日清戦争の戦利品として初めて台湾を50年間統治しました。

台湾人は、それまではオランダ人や中国人に奴隷のごとくに扱われていましたが、日本が統治した時は違っていたと言われています。当時は治安が悪く興廃した台湾に教育を導入し、教養と物に対する考え方や価値観を教え、自分たちの手で生きていけるように育

てていきました。この頃から日本に対する尊敬の念が出てきます。生活基盤も整備されつつありましたが、第二次大戦の日本の敗戦で日本人の全てが台湾から離れました。台湾はこれからまた大陸から中国人が渡ってきてどのように扱われるのかと心配し、お願いだから日本人達に帰らないでほしいと手を合わせたそうです。

私はこのように親交を通じて互いに信頼しあう、尊敬しあう、思いやるということの重要性をものすごく感じます。今の日本は少しおかしくなっています。自分だけよければそれでいい、相手のことも考えず、子が親を殺し、親が子を殺す。戦後の経済復興で日本はものすごく豊かになりました。しかし、精神的な豊かさは逆行しているように思えます。マスコミもWBCの裏物語のような感動することや、人間の魂や心を浄化するような事象をもっともっと取り上げてほしいと思います。

艋舺ロータリーとは、毎年交互に交流をしていますけれども、台北に行く年には出来るだけ大勢の人が参加して肌で感じてもらいたいです。最近では参加できる人も限られてきているように思います。登坂君は前は親睦委員長の立場から参加していただきましたが、艋舺との交流にかなり感動を受けたようで、当初計画した台北艋舺RCとの40周年記念親睦旅行をやると言ったら、「恥じないように、しっかり設営したい」と言っていました。そういった経験が大事なんですね。百聞は一見に如かずです。

以上のことを基に姉妹クラブの意義を考える題材にしていきたいと思います。



【 閉 会 点 鐘 】 13:30 田中憲一会長

事務所：鶴ヶ島市商工会館内

鶴ヶ島市鶴ヶ丘 855

TEL049-271-6600

FAX049-271-6610

例会場：アルカーサル迎賓館川越

川越市鯨井新田4-11

TEL049-231-7777

E-mail:tsurugashima.rc@ah.wakwak.com

ホームページURL <http://tsurugashima-rc.jp>

例会日時：水曜日 12:30~13:30